

- | | |
|----------|--|
| 1. 名 称 | 碧雲荘（旧熊本家住宅）石垣
へきうんそう（きゅうくまもとけじゅうたく）いしがき |
| 2. 員 数 | 1 所 |
| 3. 住 所 | 長崎県壱岐市石田町印通寺浦字大地 3 3 0 - 1 |
| 4. 構造形式 | 石造 |
| 規 模 | 総延長 1 2 3 m |
| 5. 所有者氏名 | 壱岐市 |
| 6. 建築年代 | 昭和 13～15 年 |
| 7. 価 値 | |

碧雲荘の入り口にある石垣は、高台にある旧熊本邸や門よりも早く工事が始められている。2重の石垣は外側が長さ約 50m、東側は 20 段の石を、西は 5 段の石を積んでおり、頂部は東から西へ下っている。その上を厚み 18cm、幅 35cm、長さ約 90cmの板状石を配している。内側の石垣は長さ約 45m、西に 15 段、東に 2 段の石を積む。頂部は水平であり、外側石垣と同じく板状石を配している。表面は 50×50cm程度の正方形状が多く規則正しく配置され、底部から丁寧に積み重ねられている。昭和 13 年秋頃から地均しが始まり、石積みは翌 14 年 1 月から約 1 ヶ年を要して完成させたものである。石材は佐賀県唐津市鎮西町産、総数 6,500 個の角石材を搬入している。底辺からきれいに積み重ねられた石垣は、美しい平行線を見ることができる。

この石垣は、椎谷儀重を石工として、また石工世話役の柳沢兵造を主としていずれも東京から呼び寄せて工事を完成させている。当時の土木技術の高さが認められ、また見た目も美しく、かつ現在でも保存状態が良好に残っている本物件は、旧熊本邸や門とともに評価されるにふさわしいものであるといえる。

当石垣は、登録有形文化財登録基準「国土の歴史的景観に寄与しているもの」に該当する。

